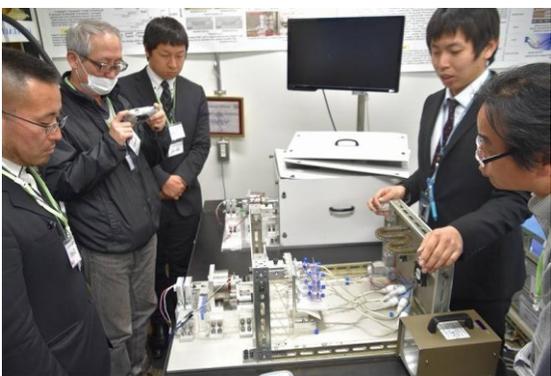


2016年度 第3回わくわくサイエンスナビ(TWIns編)を開催

3月に開催されたわくわくサイエンスナビ(TWIns編)では、小中学校の先生方に最先端の医工連携ロボットとヒューマノイドロボットについて触れる機会を提供しました。

異分野との連携の歴史や意義・ロボット制作の面白さとその難しさなどに、参加者からは驚きと感動の声が上がりました。このわくわくした体験を持ち帰って伝えていただき、改めて理科の面白さと魅力を感じた子どもたちから、次世代を担う科学者が誕生することを期待します。



《施設見学の様子①》



《施設見学の様子②》



《熱心に話される梅津教授》



《参加者からの質問に答える高西教授》

【アンケート結果：4点満点評価】

＜体験わくわく度＞ 平均3.86
＜子どもたちへの伝達意欲＞ 平均3.64



いずれもTWIns編
過去最高点

第4回理事会を開催

3月15日に、2016年度のまとめと'17年度の活動方針を決める理事会を行いました。理事会ではマネジメントの大きな転機を迎えた'16年度を総括し、次年度につなぐか、3時間余にわたって熱心に論議していただきました。

'16年度活動概要

事業実施状況は、人材育成事業の中核として、「理科教育助成」および「リーダーシップ養成講座(GRLP)」を継続し、内容の拡充と改善を図った。

財務マネジメントとしては、超低金利環境下での運用益悪化とGRLP拡大により数年間連続して赤字を計上したことに対し、赤字圧縮の方策と新たな収入源を検討し、収支均衡のめどを得た。

組織マネジメントとしては、社会情勢がより厳格なコンプライアンスを求める中、過去見過ごされてきた重要な決議事項の理事会追承認や業務処理基準の見直しを行った。加えて、監査法人により指摘された大型業務委託契約に関する利益相反疑義に関し社外調査委員会による調査が行われ、疑義は晴れたものの内部統制に対する意識改革を促す結果となった。

'17年度活動方針

日産財団は、グローバルに戦えるトップリーダーの創出を最終目標として、適時適正な人材育成を展開するための事業ポートフォリオ拡充していく。

現在の主力事業である「理科教育助成」と「GRLP」は、ステークホルダー評価が極めて高く、公益事業としての価値が広く認知されてきているため、今後も主力であり続け、これを改善・進化させる。

新しい取り組みとしては、リーダーを生み出すための教育者育成（わくわくサイエンスナビの進化形）や若年層へのリーダーシップ教育、リーダー育成戦略を支えるリーダー研究などの試験的プログラムを検討する。

組織マネジメントとしては、内部統制の意識涵養と体制構築・改善に向けて、役員および職員全員で取り組む。